

1番（上原 君代君） おはようございます。

今回の私の質問の1点目は保育行政について、2点目は太陽光発電設備について、3点目は朝市についてです。賢明なご答弁をお願いします。

1点目の保育行政についての1つ目は、6月議会で、いなべ保育園の0歳児クラス設置を前向きに検討する答弁をいただきました。その後、現場の視察や現場の声、担当課との話し合いで、稲部に0歳児保育室を実施するには0歳児保育室の増設と調理室の改修が必要とわかりました。来年度、平成24年度から実施できるように、保育室の増設と調理室の改修についての段取りを教育長にお伺いいたします。よろしくをお願いします。

2つ目は、原発事故による企業の電力の節電対策として、この7月から9月まで、土日の休みを平日に振りかえているのに伴い、当町でも該当の希望時のみ、土日保育を実施しています。その手続きなどの過程の中でサービス業、例えば理美容師の人、看護師の人、百貨店勤めの人などの保護者から、なぜ車関係の保護者だけという不満が出ていると聞きます。この保護者たちは一年中、土曜日や日曜日の勤務をしています。だけどその必要があっても、なかなか言えずに、いろんな方法を考えて、自分たちで必死に子どもの保育をやり繰りしています。この際、6園の中での集中方式でもいいから、土曜日の半日保育を一日保育へと考える、そういう時期だと考えています。教育長のお考えを伺います。

議長（山本 陽一郎君） 岡野教育長。

教育長（岡野 譲治君） 上原議員の保育行政についてのご質問にお答えをいたします。

まず、1点目の0歳児クラスの設置についてでございますが、このことにつきましては、先の6月の定例会でも上原議員からご質問をいただきました。その際にもお答えをいたしましたが、いなべ保育園におきましても、0歳児保育を実施する方向で検討する旨、答弁をさせていただいたところでございます。

稲部地区におきましては、昨今、住宅開発が進みつつあり、子どもの数が年々増加傾向にありますので、現施設で十分な保育態勢がとれるのかどうかについて、今、検討させていただいているところであります。

保育園施設は、児童福祉施設の保育所設置基準に準拠したものでなければならぬため、建設当初から乳児が入所できるよう、ほふく室を兼ねた乳児室、調理室とは別の調乳設備なども設置しておりますが、現時点では来年度以降の園児を推計いたしますと、現在の施設だけでは保育室が不足し、受け入れできない状態にあると判断し、保育室等を増設する必要が生じてまいりました。

このため、今年度中に設計を実施させていただき、平成24年度当初から保育室等の増築に取りかけられるよう、計画させていただいているところでございます。

いずれにいたしましても、多様化する保育ニーズにこたえるべく、保育環境の整備が必要なことから、十分な精査を行い、取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしくご理解賜りますようお願いを申し上げます。

次に、今後の土曜日の一日保育についてでございますが、このことは、私どももかねてより課題として考えておりました。教育委員会といたしましては、できましたら来年度から、土曜の一日保育を実施する方向で検討してまいりたいと考えております。

なお、実施方法等詳細につきましては、今後園長等とも協議を重ねながら結論を出してまいりたいと思いますので、よろしくご理解賜りますようお願いを申し上げます。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

1番（上原 君代君） ありがとうございます。

いなべ保育園の0歳児クラスの件ですけど、9月号の広報に来年度の保育園児の募集が掲載されていましたが、0歳児のことは募集されていませんでしたので、ちょっと心配しておりました。だけど今、4月当初は間に合わないけど、来年度初めから増設にかかりたいということを知って、とてもうれしく思います。本当にありがとうございました。

だけど調理室のことなど、さっきの現場の声ということを大事にして、現場の保育士や調理師の声を聞きながら、よろしく願います。

ありがとうございました。

だけど私としては、前から言っている、ちょっと心配なことがありますので言うんですけど、この前の新聞で、国が子ども子育て支援システムへ向けて計画をきちっとつくってきてる、11月の有識者などの検討会を経て、12月には制度案のまとめ、3月には法案提出して、2013年度以降、早くに恒久財源を得てから本格的に実施したいということが新聞に載っておりました。

東員町のすばらしい保育、未来を担う宝である子どもたちを守るためにも、保育サービスを親が介護保険のように現金を払って、そして保育をこま切れの物を扱うようにしていく、この社会保障の市場化・営利化する子ども子育て支援システムに対しては、今まで教育長からは割といいようなことも聞いておりますけど、町として本当に子どものためにもきちっと調べて、反対の声を上げていただきたいなと思っておりますので、今後よろしく願います。

それと土曜日の一日保育のことなんですけど、これも来年度から実施の方向へということで、やり方としては、私も本当に各園というのは難しいのかなという思いもありますので、そこら辺はまたよろしく研究して願います。

ありがとうございました。次に移らせていただきます。

2点目の太陽光発電について、生活福祉部長に伺います。

東日本大震災に伴う原発事故で、姿の見えない放射能汚染という、後々までの影響を免れない大変な事態になっています。放射能汚染の拡大、産業・観光への打撃など、深刻な影響が広がっています。避難した住民がいつ帰れるかもわかりません。

今回の原発事故が示すように、今の原発技術は本質的に未完成で危険なものです。ひとたび今回のような重大事故が発生し、放射能物質が外部に放出されると、もはやそれを抑える手段は存在せず、被害は風評的・社会的のみならず、子孫の遺伝子を傷つけ、時間的にも広がる他の事故にはない異質の危険があります。

世界有数の地震国、日本で原発を社会的に許容していいのか。現在の原発と日本社会は共存できるのか。福島原発事故は、このことを突きつけています。原発からの即時撤退とか段階的撤退などと言われる中で、自然エネルギーの本格的導入は避けられない状況です。

東員町は余り起伏のない狭い土地なので、川などを利用した水力発電とか、広い場所が必要な風力発電などはできませんが、せめて太陽光発電での普及を図ることはできると思います。原発にかわるエネルギーを求めている今だからこそ、次の提案をします。

1つ目は、太陽光発電設備の一般住宅への助成を要請します。

2つ目は、教育長にお答え願いたいのですが、学校への太陽光発電設備の設置の件ですが、昨年度検討しているということでしたが、またその後、耐震調査のために延期されました。その後どうなっていますか。設備の設置に向けて早急に進めることをお願いして、お尋ねします。

よろしく申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 岩田生活福祉部長。

生活福祉部長(岩田 利弘君) 上原議員の太陽光発電についてのご質問に、お答えいたします。

太陽光発電施設への補助につきましては、平成20年度までは三重県による県内各自治体を窓口として、「三重県家庭用新エネルギー普及支援事業費補助金」の補助を実施しておりました。平成21年度からは国による補助金制度として、「住宅用太陽光発電導入支援対策費補助金」が交付されるようになりましたので、県の補助金制度は廃止となりました。今後の太陽光発電に関する補助制度につきましては、国県の動向を見きわめ、判断させていただきたいと考えております。

また、自然エネルギーは地域の特性に応じた取り組みが可能であり、その取り組みによって地域が活性化し、地域力の向上も期待ができるものと考えております。

今後は他のエネルギーの利用についても調査、研究を行い、総合的な地域エネルギーの利用について、積極的な取り組みを行ってまいりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 岡野教育長。

教育長（岡野 譲治君） 上原議員の私に対する学校への太陽光発電施設の設置に関するご質問にお答えをいたします。

学校の太陽光発電施設におきましては、6月の一般質問でも答弁をさせていただきましたとおり、平成22年度に過重耐力度調査を行い、町内の小・中学校の校舎屋上に発電施設を設置しても構造上問題ないことを確認をいたしましたので、今年度、まずは東員第一中学校、第二中学校に設置をする予定をしております。

しかしながら、3月に発生しました東日本大震災は、これまでの想定をはるかに上回る規模の大地震となり、この東海地方に予測されております東海・東南海地震など、東日本のような大地震が発生した場合に、校舎の安全性が保証されるかの再検証が必要であると考えているところでございます。

一方、近年では、さまざまな軽量化された太陽光パネルや発電効率のよい製品が開発されつつありますし、費用対効果の面からも考慮する必要があると考え、今年度の計画は一時延期をさせていただくことといたしました。

また、施設整備につきましては、補助金などを最大限に活用する必要がありますので、今後、財政の優位性を考慮しながら、国の補助制度の動向を見きわめた計画を行っていきたいと考えておりますので、ご理解賜りますようお願いをいたします。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

1番（上原 君代君） 太陽光発電の一般家庭への導入の件ですけど、前向きな回答を得られたわけですが、今、県がなくなったかわりにということで、国から1キロワットで4万8,000円ということになっておりますけど、太陽光発電の導入を促進して、環境負荷の低減とか、住民の環境エネルギー問題への関心を深めてもらうということで、全国でいっぱいありますけど、この近くの三重県でも、10市町が助成制度を行っております。この本当に近くで桑名市とか菰野町、川越町、四日市市、そうやって本当に近くでも結構やってあって、でもそれぞれのやり方として、1キロワットでいくらということもありますけど、どれだけやっても1件が5万円とか3万円とか、いろいろあります。

そういう点、国がやっても、皆さんがより少しでも援助をもらえば、それがやりやすくなりますので、やり方は、私はいろいろ調べてもらえばいいと思いますし、少しでも家庭の人がやりやすくなるような補助制度を求めてということで考えますので、よろしく願いいたします。

その点、来年というか、今、割といいあれではもらったんですけど、そこら辺、この地域で桑名市とか、菰野町なんか、1件で5万円とか、桑名市は少ないですけど、太陽光では3万円やけど、風力とか何かもまじえて、ほかの案も、いろんな自

然エネルギーに対して出してます。そういうふうな近所のこととも思うと、もうちょっと考えていただきたいなと思うんですけど、いかがですか。

議長（山本 陽一郎君） 生活福祉部長。

生活福祉部長（岩田 利弘君） 先月、国のほうで「再生可能エネルギー促進法」というのが成立いたしましたして、エネルギーの安定確保、地球温暖化防止への対応とする自然エネルギー普及の第一歩となっております。

それには既に太陽光については買い取り制度がございますけども、その他、風力、水力、地熱、バイオマスを用いて発電された電気の買い取りについて、今後また国のほうでも、いろいろ再生可能エネルギーを利用促進するための方策が検討されると思われまので、東員町としても、太陽光に限らず、他のいろいろな自然エネルギーも検討させていただきまして、また積極的に対応させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

1番（上原 君代君） 今の意見で、太陽光以外にも考えると言われたんですけど、私としましては、本当に一般家庭で、気持ちがあればすぐに手っ取り早くやれるという設備だなと思って、まずは太陽光を挙げたわけです。東員町というのはそんなに広くないから、風力とか、そんなんは本当に無理なことがあるし、バイオマスというような施設なんか、後々あれは個人的にはなかなか難しいかなということもありまして、一般家庭へは、まず太陽光でやりやすいようにして考えたわけです。

今回私はこの質問をする前に、家につけました。娘の家と両方との電気を償うということで、5.94キロワットのあれをつけたんですけど、私は今までずっと考えてたんですけど、家が30年以上たちますので、耐震ということですのでごく心配して、今まで迷っていましたが、いろいろ話を聞くと、さっき話が出ましたように軽量化ということで、それも耐震ということで、何回も業者さんに言って調べていただいて実現の運びとなって、もうあと中電との線をつなぐだけになってるんですけど。

自分は補助関係なくて、何しろちょっとでもと思ってやったんですけど、そういう軽量化の問題なんかは、メーカーもあるかもわかりませんが、きちっと話し合っ、耐震を見てもらえば簡単にやれるかなと思ひまして、そこら辺、全体的にもすごく大事ですけど、東員町というところを考えると、太陽光というのは手っ取り早くて簡単ですので、本当に早期によろしくお願いたします。今後考えてください。

日本共産党は原発からの撤退ということを決断して、10年以内に自然エネルギーの本格的導入とエネルギー浪費社会の改善を原発からの撤退と同時並行で進めるということを提案しています。全国の自治体によっては、まるごと地域の自然エネルギーの掘り起こしに取り組んでいるところが多くあります。

例えば岩手県の葛巻町は、標高400メートル以上のところが町の95%を占める高原の自然豊かなまちですけど、町はそこで風力とかバイオマス、太陽光など、多岐にわたって自然エネルギーに取り組み、バイオマスというのは牛糞を利用しているようですけど、雇用とともに町財政を潤しているそうです。

東員町は土地が限られているので、実現できることが限られると思いますけど、できることを最大限可能にするために、助成制度を早期に考えていただきますよう、よろしく願いいたします。

次に学校の関係ですけど、今年度はできませんけどということですけど、これも同じだと思うんです。軽量ということで考えてもらって、耐震は本当に心配ですので、そこら辺調べてもらって、実現へと運んでいただきたいと思います。

特に学校の件では、三重県では玉城町が去年8月から設置して、この1年間で玉城町の実績が新聞に載っていました。玉城町は、すべての小中学校5校に太陽光発電をつけて、そして1年間の導入結果は、中電からの購入電力は約20%減って、使用せずに販売した電力量も含めると、約380万円の金銭的な効果もあったといえます。玉城町では今年度中に2つの公立保育園でも導入するそうです。各校には太陽光による発電量や二酸化炭素削減量などの数字が一目でわかる画面も設けられていて、町の環境教育や節電意識を高める効果も出ていると話しているそうです。

東員町でも一度は実施の方向に向かったわけですから、本当に早急に進めていただきたいと思いますが、そこら辺いかがですか。

議長（山本 陽一郎君） 教育長。

教育長（岡野 譲治君） 上原議員のご質問にお答えをいたします。

環境教育、太陽光発電等を利用する学校が環境教育に対してということで、これも実績があるのは私どもも十分わかっております。先ほども述べさせていただきましたけれども、なぜ延期するかということで、3点、言わせていただきました。

1点目は3.11東日本大震災で想定外のことが起こったということですので、もう一度検証してみたい。

2点目は、新しい技術や軽量化とか、僕らも今調べているんです。追尾型太陽光というのがあそうなんですけども、そういうような新しい技術が今できつつある。

3点目は、国からの補助金をいただいてきちんとやっていくという、この3点の中で今回は延期をさせていただいたということですので、よろしくご理解を賜りたいと思います。

議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

1番（上原 君代君） ありがとうございます。

技術的な面とか、国からの補助の面とかを考えると、確かに東員町の無駄なお金を使いたくないという考えでございます。でもなるべく早く、国の補助のことを考えると、早くといっても、これは町だけでは考えられないことですので、国の補助

がないと、全部は一遍にできやんでも、一部でもという感じで、何しろ考えていただきたいと思います。

ありがとうございます。なるべく早く実施ということをご期待して、次に移ります。

3つ目の朝市についてですが、町長の朝市に対する考えや、担当課に対してどのような指導をしているのか、朝市に対する具体的な施策を伺います。月に1回開かれているというふらわぁ〜びれっじ運営協議会では、どんな話し合いがなされ、どんな方向性が出ているのか、お伺いします。

議長（山本 陽一郎君） 水谷町長。

町長（水谷 俊郎君） 朝市についてのご質問にお答えをさせていただきます。

ガラス温室は平成2年から3年度にかけまして、育苗研修交流施設として建設されたものでございまして、平成4年度から運営を開始しております。

当時は、花卉やサラダ菜、トマト等の水耕栽培が行われておりましたが、その後さまざまな問題もありまして、平成16年度には、月2回の園芸教室を開催するのみとなっております。

そういった中、平成19年12月に、町民協働活動委員会から施設の活用方法について提案書が提出されました。

その内容は、農業を通じて、特に今後増えると予測される高齢者の方たちの健康づくり、生きがい対策などに活用する、温室を人の集う場として、成果品を活用して町内の美化や地産地消の活用を図るといった内容でございます。

このご提案をもとに検討を重ね、展示棟では平成20年4月から「ふらわぁ〜びれっじ運営協議会」を中心に朝市を開催していただいております。

出店者につきましては、生産農家の方をはじめ、シルバー人材センター、社会福祉協議会、いずみ作業所等のご協力をいただいております。本年8月からは、観光協会、商工会にもご参加をいただき、朝市の活性化に努めていただいております。

いずれにいたしましてもガラス温室が有効的に利用され、地産地消を目的に、農産物を中心とした町民の皆さんの交流の場となるよう、町民の皆さんを主体として取り組んでまいりたいと考えております。

また、毎月第4火曜日には、ふらわぁ〜びれっじ運営協議会が開催され、今後の方向性など、活発な議論がなされております。

近々の会議の主な内容でございますが、住民の皆様への周知が不足していると考えられることから、朝市PRチラシの作成・配布、来年度の町民カレンダーへの朝市開催日の掲載、朝市の年間スケジュールを作成し、月ごとにどのような旬のものが販売可能か、わかりやすい一覧表を作成すること、自治会掲示板へのポスター掲示など、そういった内容のもの、また今後の方針といたしまして、今までの出店者

全員に参加をいただき、これからの運営方針について検討する会議を実施する、こういった内容と報告を受けております。

今後も引き続き、ふらわぁ～びれっじ運営協議会等のご意見を参考に、育苗研修交流施設の活性化に努めてまいりたいと考えております。

よろしくご理解を賜りますようお願いを申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

1番（上原 君代君） ご答弁ありがとうございます。

今の内容の中で、ふらわぁ～びれっじ運営協議会の中で、住民への周知とか自治会向けの掲示板へ張り出すこととか、出店者の会議をとというようなことで、もう既に私、社協でもらってきましたけど、日曜朝市のチラシとか、掲示板も自治会で見ましたので、少し前よりは積極的にやってもらっているなというのはわかりました。

でも今の質問の中で、今のはずっと町としての流れです。朝市は私、2年ぐらい前に朝市を駅のところでもつくってほしいという中で、町長の答弁で、ガラス温室を使うからという回答があって、私としては、どこかでやってくれば、まずは朝市というのは、それで経過の中だからいいということで、ああそうですか、ありがたいですということで下がったんですけど、そして朝市が始まったんです。だけどそういう経過ではなくて、今、町長は私が見るところ、ふらわぁ～びれっじの活用とともに、朝市に対して積極的だと思っております。だけど、私たち共産党の町議団で担当課へ伺った時でも、担当課には町長の思いというのは全然感じられないような感じでしたので、そこで町長の考え方を聞きたいと思いましたので、そこら辺をもう一度、よろしくお願いします。

議長（山本 陽一郎君） 町長。

町長（水谷 俊郎君） 朝市というのは、町民協働委員会の時に議論をされた内容では、今、朝市会場に使っております真ん中の展示棟を含めまして、3棟、ガラス温室があるわけですがけれども、そのもの自体が使われていない。8,000万円、9,000万円の皆さんの血税が投入されているものを使われていないのはいかななものかという議論がございまして、何とか町民の皆さんで使えないかという議論があったかと思っております。その中で、あの施設そのものを、これから東員町は急激な高齢化を迎える。今までお勤めになっていた方が、いきなり町に帰ってみえる方もたくさんいらっしゃるということで、高齢化に応じた交流の場、居場所、そういうものをつくれればというような趣旨があったと記憶しております。

その中で、まず花木棟を使うということで、町内で活動をしていただいております東員花卉クラブが入っていただいて、花をつくっていただくということになりました。今、たしかポットの花を8万鉢ぐらい、年間育てていただいていると思うんですが、それで町内の美化、花いっぱい運動、そういうものに使わせていただいているんですけど、多少余るだろうと。余った物を、じゃあどこかへ売ろうと。企業



さんに買っていただくとか、いろんな方法もあるんですが、隣で売ったらどうだという話が出て、花だけ売るのはもったいないから、展示棟を会場として朝市を開催して、近隣の農家さんから野菜を持ってきていただいて花と一緒に売る。いろんな物を持ってきていただいて、そこで販売してみてもどうかと。それによって、町内の方々がそこで集まってきて交流できる場になればいいね、というような話だったかというふうなことを思っておりまして、その方向で進めるということで、行政といたしましても考えております。

議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

1番（上原 君代君） 一応経過みたいなものを聞かせていただいたんですけど、私は花卉クラブの方から直接、町ではないですけど、普通の会員の方から話を聞いたところによると、花卉クラブが使っていたビニールハウスが、建て直さないといかんような時期に来ているから、今お金を使って建て直すか、みんな高齢化しちゃって、ここでやめるかという時だったそうで、私はそこまで細かいことは知りませんでしたけど、そういう細かいことをきちっと話を聞いて、そういう時にガラス温室を使ったらどうかという話が来たから、また一步から会員の募集をやり直して始めましたということを知りましたので、それもだから、私は個人的に聞いてやっとわかりました。

そして今の町長の言われる中で、高齢者のこととか、そんなことはわかったんです。でもそういうことが6月議会の一般会計の補正予算の育苗研修費の70万円の経費の説明の時にきちっとあれば、この経費を除く修正案に対して、私、共産党町議団として、もうちょっと考えるところもあったのかなと思いますけど、そういうことは余りなかったんです。だからやっぱり、こうやってきちっと話をしてもらえないかなということを実に思っています。

あの時、現実に6月の補正の時にあったのでは、今の施設は来場者にとって、ただ不便、危険と、それだけのような感じで、それも大事ですけど、だけどそれだけでたとえ少額でも出店、いろんな前の確約もありますし、それだけでは朝市の先の見通しというものも、きちっと示さないままでしたので、やっぱり予算として不十分だったんじゃないかなという気がします。

だからそういう問題点を、きちっと修正案の賛成討論で私は示しました。そして修正案に賛成した私たち日本共産党町議団の行動に対して、町長はこれは本当に個人的だと思います。出店者という立場で私が朝市に出ている、そのところにほかの出店者もいる中で、議場での修正案に賛成したという行動を一方的に非難されました。私は議場のことは議場の中できちんと話しています。だから議場外でそういうことはだめだと思っています。

でも先日、議長の仲裁で、町長とはこの件で少しお話をしましたけど、これからのこともありますので、この場所できちんと、議場のことは議場で、委員会なら委

員会で、きちっとやっていただきたい。皆さんが普通の場所で賛成した、反対した、そういうことを持ち出してやったら、本当にたまったものではありません。だからここで町長の表明、よろしくお願いします。

議長（山本 陽一郎君） 町長。

町長（水谷 俊郎君） このふらわぁ～びれっじの件につきましては、6月議会等で説明不足であったかなということは非常に残念ですし、おわびを申し上げたいというふうなことを思います。

それと先日の件につきましては、この前、上原議員にもお話をさせていただいたように、行き過ぎたところがあったということで、おわび申し上げたいと思います。

議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

1番（上原 君代君） 私はおわびというより、今後こんなことのないようによろしくお願いします。

ありがとうございます。育苗施設の件だけでなく、本当に今後いろんな課題が出てくると思います。町長、私にはうれしいマニフェストもありますし、これはどうかというのもあります。だけど私たち日本共産党町議団は、私たちとして町民の立場に立って調査研究した上で、賛成、反対を決めていきます。でも立場とか考え方の違いで意見は異なっても当たり前です。ですから議場で討論したことは、きちんと議場でおさめていただきたい。今後同じことが繰り返されることのないように、よろしくお願いします。

ふらわぁ～びれっじ運営委員会での内容ですけど、町長が推進していて、私はいいと思えても、担当課との話し合いがきちんとできていないと、また今までのようなことになるかと思しますので、この前、7月にちらっと担当課へ行ったんですけど、まだ育苗交流施設の事業計画はできていないように感じました。町長が朝市、あそこをきちっと使っていくこと、それも大事なことだと思いますので、推進するなら、その方向に向けて担当課が事業計画を立てたり、議員の全員協議会の場で、朝市の状況や具体的な改善策などを報告して、町としての方向性にさせていただきたいと思いますが、そこら辺いかがですか。

議長（山本 陽一郎君） 町長。

町長（水谷 俊郎君） ふらわぁ～びれっじ、いわゆるガラス温室を使っていくことにつきましては、あくまでもふらわぁ～びれっじ運営協議会、いわゆる町民の方のボランティアが中心になって考えていただいております、これは前佐藤町長の町民協働活動委員会で提案をいただいた時から、町民の皆さんが主体で、それに行政もかかわって協働で進めるという事業になっております、方向性、それからやり方につきましては、運営協議会に委ねております。

そのために運営協議会のほうで、その方針、それから運営のやり方、使い方、すべてそこで決めていただくということ、それに対して町行政といたしましてはバックアップをさせていただく、こういうことで決められております。

そもそもその時に出ていた話が、先ほども言いましたように、ほとんど使われていない施設、遊んでいる施設、それを町民の手で使っていこう、有効活用していこう、こういう思いでこの話が出てきておりますので、そういう経緯になっております。その辺をご理解をいただきたいと思います。

議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

1番（上原 君代君） 今説明あったんですけど、ふらわぁ～びれっじ運営協議会に委ねているから、そこで自由にといい感じですけど、施設管理者として、そこへ預けているわけではないんだから、朝市をやっている個々の細かいことは、そうやって運んでいってもいいかわからないけど、この前みたいに予算がかかわってきたりとか、その予算には事業計画がなければ、なかなかお金を出す以上という、そういうところもありますので、運営協議会の意向が、町の担当課と話をして、きちっと理解され、進められていかなければ、事業としては進まないのかなと思いますけど、どうですか。

議長（山本 陽一郎君） 町長。

町長（水谷 俊郎君） 先ほど、藤田議員の質問にもお答えさせていただきましたが、このふらわぁ～びれっじ運営協議会の始まる前までは、例えば平成20年には、260数万円を使っておりました。それまではもっと使っていたんですね。その中で200万円強の予算があった中で、運営協議会にお願いをしてから、今年は先ほども言いましたように49万1,000円ということになっております。ということで、原課といたしましては、200万円までいくと大変ですけど、今までかかっていた範囲の中で改善ができればいいのかなということで考えた節があると思います。

そういうことで、予算が減ってきているのでいいのではないかということではありませぬけれども、経費としては、皆さんに運営していただくことによって随分減ってきている。その中で運営協議会の中でいろんなご要請がございましたので、その範囲の中で対応させていただこうということで考えたものと考えております。

議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

1番（上原 君代君） 私としては、まだやはり事業計画という、町の施設ということで、いくら去年が少なくなったから、その分があるから、今年そういう気で多分70万円も出てきたかと思うんですけど、そんなもんじゃないと思いますので、もう一度また、委員会とか、いろいろなところで話し合っていきたいと思えますし、皆さんが納得できるようなことで図っていただきたいと思えます。ありがとうございます。

ただ、私としましては、予算決算常任委員会とか、質問とか、修正案の賛成討論でも表明していますが、基本的に朝市に反対しておりません。より多くの人たちがかかわって、さっき言われるように、高齢者の生きがいと地産地消の場所になればと思っていますので、本当にうまくいけるように、議員の皆様と一緒に行政との話し合いがなされていければいいと思います。

これで終わります。